

令和 6 年 6 月 15 日現在

機関番号：32687

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00380

研究課題名(和文)『三国英雄志伝』諸本の研究

研究課題名(英文)Studies of Editions of "Sanguo-Yingxiongzhizhuan"

研究代表者

中川 諭 (Nakagawa, Satoshi)

立正大学・文学部・教授

研究者番号：20261555

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本課題では、『三国志演義』の中でも『三国英雄志伝』と題する版本を取り上げ、その特徴と『三国志演義』版本の中での位置づけを考える。まず明刊本『三国英雄志伝』の研究から始め、劉興我本、劉崇吾本、楊美生本の関係を明らかにした。ドイツ・ワイマール所蔵の美玉堂本、遼寧図書館の松盛堂本、北京の張青松氏所蔵の致和堂本、ベルリン州立図書館の鄭喬林本を取り上げ、それぞれの版本の特徴と『三国英雄志伝』諸本相互の関係を詳細に考察した。こうして、『三国英雄志伝』の成立過程や出版状況の一端を明らかにすることができた。

本研究遂行中にも次々と新資料が発見された。これらについても、引き続き研究を進めていく必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、『三国志演義』の版本は清代になって毛宗崗本が出現したことにより、それ以外の版本は全て淘汰され、毛宗崗本のみが流行することになったと考えられてきた。しかしながら毛宗崗本が成立した康熙五年以降にも『三国英雄志伝』と題する簡本系版本が多数出版されている。さらに最近中国国内で次々と『三国志演義』版本の新資料が発見されており、これらはその大多数が『三国英雄志伝』と題する版本である。

これら『三国英雄志伝』を網羅的に取り上げ研究することによって、『三国志演義』版本に関する従来の説を改めることとなった。また、新発見資料を仔細に検討することによって、新発見資料の持つ重要性を社会に知らせることができた。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on the edition titled "Sanguo Yingxiongzhizhuan" within "The Romance of the Three Kingdoms," examining its characteristics and its position among the various editions of the work. Starting with research on the Ming dynasty edition of "Sanguo Yingxiongzhizhuan," the relationships between the editions by Liu Xingwo, Liu Rongwo, and Yang Meisheng were elucidated. The study also examined the Meiyutang edition held in Weimar, Germany, the Songshengtang edition in the Liaoning Library, the Zhihetang edition owned by Zhang Qingsong in Beijing, and the Zheng Qiaolin edition in the Berlin State Library, analyzing the features of each edition and their interrelationships.

Through these investigations, the formation process and publication context of "Sanguo Yingxiongzhizhuan" were partially clarified. During the course of this research, new materials were continually discovered. It is necessary to continue studying these new findings to further deepen our understanding.

研究分野：中国文学

キーワード：三国志演義 三国英雄志伝 版本 簡本 清刊本

1. 研究開始当初の背景

申請者は長年にわたって『三国志演義』の版本研究を行ってきた。まず通行本とされてきた毛宗崗本の成立過程からその研究が始まり、次いでその他のおよそ三十種あまりにわたる版本について検討を行った。その結果、『三国志演義』の諸版本は大きく三つの系統に分けられること、『三国志演義』にも、繁本と簡本の違いが存在していることを明らかにして、『三国志演義』諸版本の系統図を作成した。これらの研究成果をまとめて、拙著『『三国志演義』版本の研究』(1998年、汲古書院)を公刊するに至った。

しかし拙著で論じた『三国志演義』の版本研究が完結したわけではなかった。拙著の刊行後、中国でも『三国志演義』の版本研究が活発に行われるようになり、周文業氏・劉世徳氏・陳翔華氏などによっていくつもの『三国志演義』版本に関する研究成果が発表された。また申請者も拙著執筆時には見ることのできなかつた中国各地に蔵される資料を閲覧し、引き続き『三国志演義』の版本研究を続けていった。

そうした中で、これまで知られていなかった『三国志演義』の版本が次々と発見された。周曰校本の朝鮮覆刻本、朝鮮銅活字本、致和堂本『三国英雄志伝』、大文堂本『三国英雄志伝』などである。また存在が報告されながらもほとんど検討されてこなかった版本も数多くある。すなわち、鄭喬林本、美玉堂本、劉興我本、松盛堂本(四本いずれも『三国英雄志伝』)などである。

これら新発見資料や未検討資料の大多数は、書名を『三国英雄志伝』と題する版本群である。これらは明末期から清代中後期にかけて多数出版されている。これは「毛宗崗本が成立して以降はこの本が流行し、その他の版本は淘汰された」という従来の定説と大いに異なる事象である。現存する『三国英雄志伝』の数からして、『三国志演義』の読者の多くは実は『三国英雄志伝』を読んでいたのでないかと想像される。また『三国英雄志伝』の多くは二十巻本であるが、新資料の中には版式・内容の特殊な六巻本や十二巻本もある。

このように、この数年で『三国志演義』の版本をめぐる状況は、『三国英雄志伝』を中心に大きく変化してきた。拙著およびその後の研究においていくつかの『三国英雄志伝』を取り上げられてはいるものの、個別の版本の研究にとどまっている。新発見・未検討の『三国英雄志伝』はまだまだ数多く存在しており、それらを含めた『三国英雄志伝』の研究はほとんど行われていない。だとすると、申請者のかつての研究成果を踏まえながらも、新発見資料・未検討資料を中心に『三国英雄志伝』を網羅的・総合的に調査・研究していく必要がある。そして『三国志演義』諸版本の中における『三国英雄志伝』の位置づけを改めて考えていかなければならない。

2. 研究の目的

『三国志演義』の版本の中で、『三国英雄志伝』諸本はこれまであまり重視されてこなかった。それは刊行時期が比較的遅いこと、文章が簡略化されていることによって、『三国志演義』諸版本の中ではあまり重要ではないと考えられていたからである。しかしながら実際は、明代の終わりから清代の中後期にかけてさまざまな種類の『三国英雄志伝』が刊行されていた。そして数多くの『三国英雄志伝』が現存している以上、当時の出版状況や当時の読者による『三国志演義』受容のしかたの観点から、決して無視できない存在のはずである。本研究は従来見過ごされてきた『三国英雄志伝』に焦点を当て、研究を進めていこうとするものである。そして本研究をとおして、明代末期から清代にかけての『三国志演義』の出版状況と、本当に読まれていた『三国志演義』がどの版本なのであるかということが明らかにしようとするものである。

また本研究では、近年次々と発見されてきた新発見資料や未検討資料を取り上げる。当然のことながら、これらは従来誰も検討してこなかった資料である。新資料を取り上げることで、これまで知られていなかった『三国志演義』の版本を巡る状況が明らかになってくることであろう。

3. 研究の方法

まず資料を蒐集する。『三国英雄志伝』諸本のほとんどは中国国内に蔵されている。日本国内にはほとんど所蔵がない。(東京大学東洋文化研究所と名古屋大学附属図書館にそれぞれ一本ずつあるのみ。)また影印本もほとんど出版されていない。そのため現地に出かけて、資料を閲覧し、許可が得られれば写真撮影を行う。蒐集した版本資料について、その本文をコンピュータ上で扱えるようにテキストデータ化しておく。

『三国英雄志伝』の中で行款が同じ版本については、同版か異版かの判定を行う。同版の本については、いずれの本が印刷がより早いかを判定する。異版のものについては、封面・木記・序文などを手掛かりにおよその刊行年と相互の前後関係を推定する。

『三国英雄志伝』各本の本文を詳細に比較することをおして、諸本相互の関係を明らかにする。それらを積み重ねることによって、『三国英雄志伝』諸本を系統づける。この点が本研究のもっとも中心となることである。各版本の本文比較には、首都師範大学の周文業氏が開発された「版本比較プログラム」を使用する。このプログラムを使うことによって、数種類の版本の本文を同時に比較することができる。

以上のことを総合して、『三国志演義』諸本の中における『三国英雄志伝』の持つ意味を明ら

かにする。そして『三国志演義』諸本の中で、近代に至って毛宗崗本が真に普及するまで、本当に読まれたのは『三国英雄志伝』であったことを証明したい。

4. 研究成果

まず『三国英雄志伝』の研究のはじめとして、明刊本の『三国英雄志伝』についての研究を行った。その成果が「明代の『三国英雄志伝』 『三国英雄志伝』研究序説」(『立正大学文学部研究紀要』第36号、立正大学文学部)と題する論文である。『三国英雄志伝』は明代末期に登場した。明刊の『三国英雄志伝』の中で、劉興我本と劉栄吾本は継承関係にあり、楊美生本と劉興我本・劉栄吾本は並列の関係にある。『三国英雄志伝』は確かに簡本系に属する版本であるが、文章は時に繁本系、特に二十四巻系に一致することがある。これは『三国英雄志伝』に関する重要な問題であり、引き続き深く検討していかなければならない。『三国英雄志伝』が成立したばかりの時は、書名はまだ「三国志伝」であって、後になって書肆が「英雄」の二文字を付け加えて、「三国英雄志伝」という名称が成立した。

続いて、ドイツ・ワイマールに伝わる『三国英雄志伝』を取り上げた。その論文が「ドイツ・ワイマール所蔵『三国英雄志伝』について」(『三國志研究』第15号、三國志学会)である。ドイツ・ワイマールにあるアンナ・アマリア公爵夫人図書館に『三国志演義』の版本一種が蔵されている。すなわち、『二刻三国英雄志伝』と呼ばれる本で、清代の書肆美玉堂によって出版されたものである。この本は、楊美生本を翻刻して成立した。中国国家図書館に蔵される魏某本も「二刻三国英雄志伝」と題する本であるが、この美玉堂本とは継承関係にはない。上海図書館にも美玉堂本と称する本が蔵されているが、これはワイマールの美玉堂本の二世代後の翻刻本である。清代以降、『三国英雄志伝』系統の簡本『三国志演義』が大変流行していくが、美玉堂本は『三国英雄志伝』流行の先駆となる版本である。

遼寧図書館に『三国英雄志伝』の版本が一つ蔵されている。この遼寧図書館蔵本を中心に、『三国英雄志伝』の六巻本について論じたのが、「『三国英雄志伝』の六巻本と十二巻本」(『三國志研究』第16号、三國志学会)である。遼寧図書館所蔵の『三国英雄志伝』は、標題を『新刊按鑑演義京本三国英雄志伝』という。この本は清代の書肆松盛堂によって刊行されたものである。(以下「松盛堂本」と称する。)この本の行款は六巻本と同じで、文章も大差がない。しかしながら十二巻本で、巻数が異なる。本稿は松盛堂本の本文を仔細に検討し、松盛堂本の性格と六巻本との関係を考察し、さらに六巻本『三国英雄志伝』が成立する過程と清代の『三国志演義』の出版状況の一端を明らかにしたものである。

北京在住の蔵書家張青松氏は個人でいくつかの『三国英雄志伝』の版本を蔵されている。その中に『新刻按鑑演義京本三国英雄志伝』と題する本二十巻本がある。この本について論じた論文が「致和堂本『三国英雄志伝』について」(『立正大学人文科学研究所年報』59号、立正大学人文科学研究所)である。この版本の本文版心の下に「致和堂」という文字が見え、よってこの本は書肆致和堂から刊行されたものだと分かる。致和堂本は確かに「英雄志伝グループ」に属する版本であるが、そのうち六巻本に最も近い。しかも致和堂本は必ずしも六巻本の底本ではないが、六巻本の祖本と密接な関係にある。冒頭12則に二十四巻系の影響があり、13則以降が『三国英雄志伝』の文章になっている「先繁後簡」は、従来六巻本の特徴であると考えてきた。しかしこの性質は致和堂本にも当てはまる。「先繁後簡」は必ずしも六巻本に始まるものではない。

ドイツのベルリン州立図書館に『三国志演義』の版本が一つ蔵されている。この本についての研究が「鄭喬林本『三国志伝』について」(『立正大学文学部論叢』第146号)と題する論文である。ベルリン州立図書館所蔵の『三国英雄志伝』は、書名を『新刻全像演義三国志伝』といい、二十巻本である。この本後期二十三年の刊行で、は簡本「英雄志傳グループ」の中の「先繁後簡」小グループに属し、『三国志演義』の版本変遷過程の中では比較的遅い時期の版本である。しかしある部分では『三国英雄志伝』の比較的古い様相を留めている。そして鄭喬林本はその他の『三国英雄志伝』諸本と比べて古い様相を留めていると考えられる個所は、繁本二十四巻系と一定の関係にあると考えられる。鄭喬林本は『三国英雄志伝』の成立を探求するに当たり、キーポイントとなる重要な版本である。

本研究課題の期間中に、以上のような研究成果を発表した。これらの研究を進めている間にも、中国国内で『三国英雄志伝』の新しい資料が次々と発見された。これら新資料の多くは、北京在住の蔵書家張青松氏・張穎傑氏の蔵するところとなった。張青松氏・張穎傑氏ともに交流を持っていることから、両氏に新資料の写真数枚を見せていただいた。するとその中にはこれまで見たことのない『三国英雄志伝』の版本がいくつもあった。これらについても詳細に研究を進めなければならない。その上で、初めて『三国英雄志伝』の全体像を把握することができるであろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 中川諭	4. 巻 なし
2. 論文標題 関于顛傑氏所藏《三国英雄志伝》	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 第21届中国古典小説・戯曲文献暨数字化国際研究会会議論文集	6. 最初と最後の頁 P39-P54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川諭	4. 巻 第17号
2. 論文標題 九州大学所蔵二十巻本『三国志伝』について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 三國志研究	6. 最初と最後の頁 P87-P104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川諭	4. 巻 第148号
2. 論文標題 鄭喬林本『三国志伝』について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 立正大学文学部論叢	6. 最初と最後の頁 P65-P95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川諭	4. 巻 なし
2. 論文標題 立正大学図書館所蔵《三国志伝》	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 首屆中国古代小説海外伝播国際学術研究会論文集	6. 最初と最後の頁 P9-P16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川 諭	4. 巻 第41巻第4期
2. 論文標題 新現遺香堂本《三国志》是歴史著作麼 以耶魯大学、美国国会等図書館新現珍本為例兼及四个問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『河北学刊』	6. 最初と最後の頁 113-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川 諭	4. 巻 16
2. 論文標題 『三国英雄志伝』の六巻本と十二巻本	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 三國志研究	6. 最初と最後の頁 131-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川 諭	4. 巻 35
2. 論文標題 致和堂本『三国英雄志伝』について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立正大学人文科学研究所年報	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川 諭	4. 巻 -
2. 論文標題 關於松盛堂本《三國英雄志傳》	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第四届世界漢學論壇、第十九屆中國古代小說戲曲文獻國際研討會會議論文集	6. 最初と最後の頁 263-280
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川 諭	4. 巻 第十五号
2. 論文標題 ドイツ・ワイマール所蔵『三国英雄志伝』について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 三國志研究	6. 最初と最後の頁 41-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川 諭	4. 巻 -
2. 論文標題 關於德国魏瑪所蔵《三国英雄志伝》	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 2019年第十八届中国古代小説、戯曲文献暨数字化国際学術研討会論文集	6. 最初と最後の頁 P1-P7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川 諭	4. 巻 -
2. 論文標題 明代的《三国英雄志伝》 《三国英雄志伝》研究緒論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国古代小説国際学術研討会会議論文集	6. 最初と最後の頁 P50-P61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川 諭	4. 巻 36号
2. 論文標題 明代の『三国英雄志伝』 『三国英雄志伝』研究序説	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立正大学文学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 P35-P52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川諭	4. 巻 15号
2. 論文標題 ドイツ・ワイマール所蔵『三国英雄志伝』について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 三国志研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 中川諭
2. 発表標題 関于鄭喬林本《三国志伝》
3. 学会等名 第六届世界漢学論壇 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中川諭
2. 発表標題 関于穎傑氏所蔵《三国英雄志伝》
3. 学会等名 第21届中国古典小説・戯曲文献暨数字化国際学術研討会 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中川諭
2. 発表標題 立正大学図書館所蔵《三国志伝》
3. 学会等名 首届中国古代小説海外伝播国際学術研討会 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中川諭
2. 発表標題 關於致和堂本《三国英雄志伝》
3. 学会等名 第五屆世界漢學論壇
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中川諭
2. 発表標題 關於九州大学所藏二十卷本《三国志伝》
3. 学会等名 2021年第二十届中国古代小説戲曲文献暨数字化学術研討会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中川諭
2. 発表標題 關於松盛堂本《三國英雄志傳》
3. 学会等名 第四屆世界漢學論壇、第十九屆中國古代小説戲曲文献國際研討會（國際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中川諭
2. 発表標題 關於德国魏瑪所藏《三国英雄志伝》
3. 学会等名 2019年第十八届中国古代小説、戲曲文献暨数字化國際學術研討会（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中川諭
2. 発表標題 明代的《三国英雄志伝》 《三国英雄志伝》研究緒論
3. 学会等名 中国古代小説国際學術研討会（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------